

メンバーとスタッフのための内部研修会(第3回)の開催

今年で3回目となった、内部研修会は、2016年12月10日(土)9時30分から16時まで 東住吉区民ホールにて、約120名の参加を得て行われた。日々の私の・私たちの実践を、みなおしていく大切な時間となっている。

当日は、先に逝かれた方々への黙祷に始まり、板倉・井上(前半)石丸・松政(後半)の司会で進行した。プログラムの中には、11月行ったアンケート結果の報告を松村が行った。会場の準備から後片付けまでを全員の協力を得て行えた。当日の内容を伝えきることにはできないけれども、断酒が続くようになるまでの生活がどうであったのか、「いちご」利用を通じて何を覚えてきたのか、変えられてきたのか、今何を大切にしているのか等を出し合い皆で考えていく場となった。最後に発言が回らなかった人からも一言ずつ話してもらい、植松理事長からの終わりの言葉で終了した。

かつてのどん底のホームレス、入退院を繰り返していた時の心情、行き当たりばったりの生活、断酒が続かない生活、自分もっていたさまざまな偏見からも抜け出し、体力と気力を取り戻していく日々をおくることが大切だ。これまでの考えを変えて、先に向かうこと、その手がかりとして自助グループ

テーマ「生活の回復・生き方の回復」

を大切にしたい楽しみもある生活づくり、話し合い、カフェやお弁当の仕事、清掃の仕事、責任をもって行う種々の仕事、諸活動の数々がある。就労を含む生活経験を通じて、相手のことと思って会話ができる、あたり前の生活ができていく。色々なトラブルもおきるがそれも試練のひとつで乗り越えると自己成長となる。どのように生きていけばよいのか恐くて先行き不安だった時から比べて少しずつ変わってきた。あがき続けうまくいかなかったものがあきらめた瞬間から好転することもある。人の暖かさ・感じる心や笑顔は取り戻せる。生活バランスは大変難しいが、仲間のところに足を運ぶことが大切さを再認識した。

この世にだめな人などはいない、だめだと思ってきた(思わされてきた)その思いからこそ回復して自らの人生を歩まれていく必要があることをあらためて考える研修会となった。(佐古)



大阪府知事表彰受賞することができました。—自彊不息の精神を引き継いで、仲間との共同行動を大切に—

この度、おかげさまで、精神保健福祉分野における特定非営利活動法人いちごの会の活動が認められ、「いちご」が2016年度大阪府知事表彰を受けることができましたことをご報告します。

アルコール作業所として始めようとした頃に関係者の方々と話し合ってきたことは、作業所を開所してめざすべきは「トータルな回復」「より一層社会参加」ということでした。そうして開所以降は一貫して、依存症の方々が地域で生きていくエンパワメントへの支援を模索してきました。

ところで、大阪市には歴史ある救護施設「大阪自彊館」があります。古くから愛隣地区の中でアルコール問題に取り組んで来られています。「いちご」にはそのOBの方もたくさんおられます。自彊館では、「自彊不息」の精神が大切にされてきています。『自らをきたえて(勉めて)励



む』ということなのだ。かつて小杉先生が教えてくれました。依存症回復施設にはこの精神が宿っていなければ、人々ある生きる力や自律心を摘み取ってしまうものとなってしまいかねません。あれから、地域の様々な人びとが共に考え協力して一緒に作ってくださって様々な活動を続けることができ参りました。自助グループ、医療、行政、そして仲間や地域の人びとの御支援とご協力に心から感謝申し上げます。これからも少しずつみんなで頑張っていきたいと思っております。皆様どうか変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。受賞できたことを素直に喜びとし、皆様へ感謝の言葉を申し上げたいと思っております。(佐古)

メンバー体験談

誠に酒が好き。日常生活の中に溶けていた。由に小学5年生になる時大阪に越してきて今「幸村」で有名になった、真田山小学校に編入になった時、5組に居た前女房にこの入院を機に捨てられたのと一緒。この年では未練がましく追いかける訳にもいかん。酒も一緒。私はそう思っている。三年程前より、気力がなくなり、自転車に乗っていて転倒するもの3度あった。顔を傷付けたり、住吉大社の御神田の排水溝に、深夜自転車で帰宅途中寝むっていたり・・・不思議なことに、7月というのにひとつも蚊に刺されていなかったのを思い出す。

平成26年の11月頃だったと思う。朝方近く近くのコンビニに缶チューハイを買いに行った帰り転倒、顔面に傷を負い近くの阪和病院に入院。そのせいだろう。繁忙期の暮のバイトを休み、それ以降昼間は近所でバイトを見つけたものの、4カ月程度で辞任。理由は、危険物を取り扱うものであったから。夜の仕事も十年以上続けてきたが、気力も何もなくなって辞めてしまった。東京の次男が帰阪している時、

トイレの前で大便をもらしたりの記憶はある。

とにかく、長年愛飲してきた酒に、脳であれ身体であれ、全ての力を渡してしまったということ。もうこのまま死んでもエエワ・・・と虚ろっていた時、息子2人に「行くで」と抱き起されて、記憶が無くなった。

今思うに、毎日確かに寝起き出来てきたのは、2月頃からだと思う。頼んだ身の回りの物を病院に持ってきてくれた長男が私と会話し、「これなら一人で生きていけるな」と言ってくれた。前年の10月中旬に入院し、10月13日退院。ほぼ一年かかった。

今は長居のワンルームで単身生活。朝は長居公園への散歩で始まり、和泉の病院週3、いちご3、日曜日オフ。1日2合米を炊き食う。今病院約40日目これを書いている。

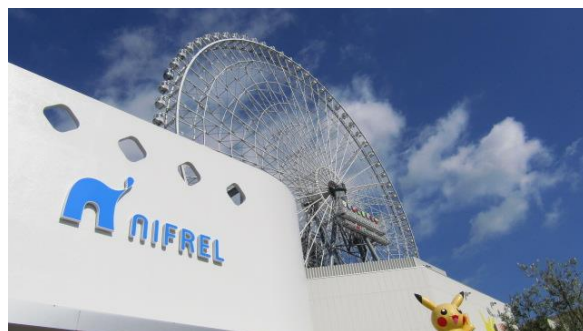
生活保護は誠に有難い。3ヶ月後に自活を目指して生活しよう・・・どうなることやら (重本尚一郎)

レクリエーション

いちごでは毎月レクリエーションのプログラムとして、メンバーさん・スタッフの中から選考されたレク委員でレクリエーションの企画を行っています。11月には大阪の新たなスポットといえる、エキスポシティへと行ってきました。

(メンバー感想)

個人的に行ったのは2回目でしたが、観覧車に2回も乗ってしまいました。ニフレルはきれいな水族館でテンションが上がりました。ホワイトタイガーも間近で見ることができて、感動しました。



いちごいちえのこの頃

いちごいちえも開設以来3年を超えました。「いちえ」を知らない方にとって、一体あそこで何をしてるんだろうと、疑問に思う人も多いのでは。ざっとこれまでのいちえでの活動を振り返ってみると、その都度流行したものが思い出されます。最初は、メンバーが何をしたいのか戸惑うと思いましたが、色々なメニューを用意しました。書道や般若心経やペン字の練習、写生やナンブ将棋や囲碁など、思いつくものを用意して、皆でやってみることにしました。プラ版のストラップづくりなども楽しく取り組みました。でも、そのうちに飽きてきたり、自分の趣味に合わないものもなくなります。そしてそれぞれが、自前の趣味のものを持参されるようになりました。手芸や、折り紙、ナンクロなど一人で集中してできるものが取り入れられてきました。ある時期は、皆で遊べるトランプゲームがブームになり、大富豪というゲームに夢中になり、大きな笑い声が響いていました。そして最新の流行は、カラオケの歌合戦です。今も楽しそうな歌声が聞こえてきます。



いちごの日

11月より、毎月15日を「いちごの日」とし、カフェ（リカバリハウスいちご阿倍野）にて「さをり織り」などの自主作品や、手作りのお菓子を店頭にて販売するイベントを開催しています。

初回の11月15日（火）には、いつも来てくださるお客様に加え、初めてのお客様にも来ていただきました。今後も「いちごの日」をきっかけに、より多くのお客様にお店を知っていただけるよう、様々なイベントを開催していく予定です。



(メンバーの声)

12月はクリスマス向けに手作りのキャンドルや、畑のゆずを使った手作りのジャムやパウンドケーキも販売されました。今後も雑貨販売だけにとどまらず、色々な人が色々なものを作って出品していけたらいいですねということになっています。

次回予定日：1月16日（月）

新生会病院看護補助業務

11月より新生会病院からの業務委託を受け、これまでの日中の看護補助業務に加え、夜間の作業が始まっています。作業に参加されているメンバーさんにお話を伺いました。

(メンバーの声)

昼の作業と同じように配膳・下膳を行い、それに加え食器の洗浄を17-19時の時間で行っています。

病院の厨房のスタッフの方に丁寧に教えてもらっています。途中で引き上げることもありますが、もう少し作業時間が長ければ最後までできるのと思います。帰りが遅くなりますが、普段断酒会に行ってる時と変わらないので苦になりません。

今まで入院時にお世話になった病院で働かせてもらって嬉しく感じています。病院のスタッフにも喜んでもらって励みになっています。作業に参加して3カ月経ちますが、楽しくやっています。助かると言われてもらえ、とても嬉しいです。



第25回神戸市民酒害セミナー

2016年11/13(日)、第25回神戸市民酒害セミナーにて(「いちご尼崎」の精神保健福祉士)武輪真吾が講演を行いました。実際に行かれたメンバーさんからの感想です。

(メンバーの声)

行政、医療、断酒会、一般参加、合わせて165名の中で、精神保健福祉士の武輪さんのスライドを通しながら話す内容は本当にわかりやすいものでした。

断酒会の方の、友人・家族の話も涙してしまいました。又、いちごのメンバー(尼崎)の体験談にも何かほっとする所も多いように感じた日でした。

